

終戦から 80 年

～平和について考える～

『かんがえる国際法』

ヴォーン・ロウ／著
白水社
請求記号：329

国際法（条約など）と国内法
の関係は。領土争い、漁業権、
貿易といった国際的な争いにお
いて、国際法はどのように機能
するか。法学を学んだことのない
人に理解してもらう事を意識し
て作られた国際法の入門書。

『永遠の平和

千葉の「戦後70年」を歩く』

東京新聞千葉支局編者／著
斎書房出版
請求記号：213.5

千葉県は、戦後ゼロからの復興
により、全国有数の京葉工業地
域の開発、日本の空の玄関口・成
田国際空港の開港、テーマパーク
の王様・東京ディズニーランド
の開園など、めざましい発展を遂
げてきた。一方、大規模な開発は
公害

や住民との軋轢など多くの負の遺産も残した。

晩年を関宿町（現在の野田市関宿町）で過ごした終戦
の立役者の一人、宰相鈴木貫太郎が、うわごとのよう
に発した最期の言葉は「永遠の平和」だったという。
本書は千葉の戦後の歩みを振り返り、その魅力を再発
見しつつ、平和についてあらためて考える。

『日本軍兵士のリアル』

中央公論新社
請求記号：391.2

日本軍兵士たちのリアルは、残酷で
過酷。生命の軽視と思える攻撃を繰り
返し捕虜は恥と降伏できず、栄養失
調、餓死、感染症、日常に心が病み、
戦争が終わっても続く後遺症。

戦争の恐怖を肌で感じられる一冊。
平和は尊い。

『温泉の平和と戦争』

石川 理夫／著
彩流社
請求記号：453.9

温泉地は、洋の東西を問
わず平和的な中立の場所と
して扱われてきた。宗教的
聖域や交易場所など同等的
の扱いだ。そのため古くか
ら世界各地の温泉地では、
戦争の最中でも傷を負った
者たちが、敵味方関係なく
同じ湯で療養していた。
平和と戦争の問題を通じて
温泉地の持つ存在意義、
歴史、特性を見つめ直す。

著者は日本温泉地域学会会長。
温泉愛に溢れた一冊。

